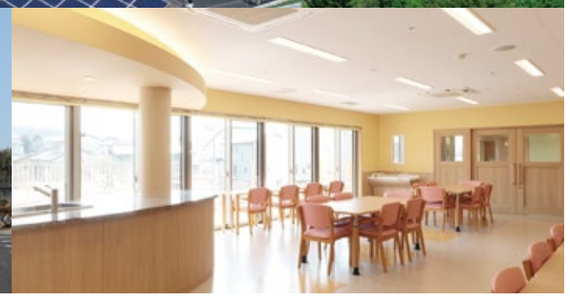
つつじ

2021年7月発行
第60号

特 集　つつじヶ丘光の園新築

様々な視点からのつつじヶ丘光の園紹介
竣工式開催

【寄付御礼】皆様からのご寄付の報告



社会福祉法人 広済会 KOUSAIKAI

発行元：社会福祉法人 広済会　発行責任者：理事長 石倉信男
〒376-0123　群馬県桐生市新里町武井455-1
TEL：0277-74-1530　　FAX：0277-74-5830
URL https://www.tsutsuzigaoka.net

ご寄付ありがとうございます

この度、障害者支援施設「つつじヶ丘光の園」新築工事が、このコロナ禍の中、ほぼ予定通りに竣工なりましたことは、奇跡に近いといってもいいほどであり、関係各位のご理解、ご協力があればこそであります。

そしてこれまで多くの方々に資金面でご協力いただきましたことに深く感謝申し上げる次第です。

又、これを機に多額のご寄付をいただきました高瀬七郎様（元広済会理事、元つつじヶ丘光の園施設長）と、中原幹榮様（米原家ゆかりの方）には重ねて御礼申し上げます。有効に使わせていただきます。

文：常務理事　米原祐文

感謝

令和2年度、左記の方々から、ご寄付・ご寄贈を頂戴いたしました。ありがとうございました。

【お名前のみ掲載】

・中原　幹榮　様
・菊池　アキノ　様
・医療法人　宏伸会　様
・赤南診療所　高橋厚　様
・桐生西ロータリークラブ　様
・須田　ハル　様
・善龍寺　住職　米原祐尋　様
・小原　益子　様
・つつじヶ丘保護者の会　様
・ドミノピザ　相生店　様
・群馬県こんにゃく組合　様
・丸登靴下工業株式会社　様
・三十三間堂　妙法院門跡　様

このほか各事業・行事等において、皆様からの善意の品々を多数頂戴いたしました。ありがとうございました。

合掌

つつじヶ丘保護者の会様からのご寄付

つつじヶ丘保護者の会様から多目的ホールに時計のご寄付を頂きました。

ご芳情のほど誠にありがたく厚く御礼申し上げます。これを機に職員一同一層の努力を傾注し、保護者様のご期待に沿うべく奮闘いたします。

光の園竣工式

令和3年5月19日（大安）に、光の園の竣工式を挙行いたしました。光の園の新園舎は、3月19日に完成引渡しとなり、3月末に利用者様の引っ越しを終えました。コロナ禍ではありますが、竣工式は、新しい施設の最初の歩みとして実施したいとのことから、法人関係者のみで行うことと致しました。

当日は、敷地内に建立されました、供養塔の開眼、記念碑の除幕式を行い、これからの施設の安全を祈念致しました。

竣工式は、善龍寺住職による「法楽」の後、頂戴いたしました祝辞の代読、園歌「つつじヶ丘はふるさとよ」で終了となりました。

文：事務局長　武田英

「新」光の園になって

新たな施設となり、新年度がスタートしました。利用者様が長年待ちに待った新しい光の園です。

個室での慣れないベッド生活を当初は心配しましたが、快適な様子で安心しています。

部屋でTVを真剣に見ている方、趣味のパズルをしている方、折り紙、ぬり絵など思い思いの時間を楽しんでいます。お風呂は広く、温泉のような浴槽は快適に入ることができます。日中活動ホールは開放的で、明るい声が響いています。

コロナウイルスの影響で、保護者様や地域の方々と未だこちらでお会いすることが出来ませんが、共に光の園で過ごせる日を楽しみにしております。

文：施設長　大須賀百合子

看護にも好影響

新光の園になって医務室もすべてが新しく、明るく広々とした空間になったことで自然と気分まで明るくなります。

利用者様に関しましても、最初は戸惑いもあったことと思いますが、広々とした個室の空間で寛ぎ、「ほっとひといきスペース」などで談笑されている姿をみかけると安心致します。

バリアフリーになったことで、利用者様の移動がしやすくなり、医務室での健康管理も安全に行えるようになりました。

これからも利用者様に安心した日々を過ごしていただけるように、職員一丸となりサポートしていきたいと思います。

文：看護師　松井俊幸

利用者様の声の一部

あたらしくていい

自分の部屋があってうれしい

静かに寝られる

廊下が長くて運動になる

お風呂が入りやすい

ごはんがおいしい

厨房が広くなりました

今まで光の園と学園は別体制で食事提供を行っていましたが、4月からは献立も厨房も一緒になりました。

新しく導入した回転釜、コンベクションオーブン、温冷配膳車などで料理の幅が広がり、明るく全体の動線が良く働きやすい環境になりました。

食事は利用者様が楽しみにしている大切な部分です。調理員も慣れていないところがまだありますが、頑張って取り組んでいきたいと思います。

文：栄養士　大沢留美

支援の現場から

新光の園に引っ越しをしてから、三ヶ月が経とうとしています。引っ越した当初はトイレの場所や自分の部屋の場所などがすぐには覚えられず、居場所が分からなくなってしまう利用者様がいました。今は少しずつ慣れてきましたが、まだ環境の変化に戸惑っている利用者様もいます。

私たちもまだ慣れていない部分がありますが、利用者様はキレイな設備に嬉しそうな表情を見せてくれます。

これからも利用者様の安全を第一に考え、快適に過ごせる環境を提供していきたいと思います。

文：支援員　須田紅映